

たくさんの出会い 会場いっぱいの28名が参加

9月27日映画「冬の兵士・良心の告発」を観て語り合う会

「経費がかからない企画を気軽に少人数でもやろう」と始めた「第1回飛び入り企画」でしたが、初めてお目にかかる方が次々に来場して半数を占めました。事前予約が3名で「10名来れば良いほう」と思っていた私としては、「大番狂わせ」にびっくり仰天。地元各紙の大きな紹介記事のおかげということもありますが、多くの「TVでは知らされない大切な真実を知りたい」との真剣なまなざしを強く感じました。参加費300円の25名分＝7500円がそっくり収入金になりました。私毛利は、「戦争と人間の根本矛盾を問う」と題して30分ほどミニ講演しました。その後、ほぼ半数が最後まで参加されましたが、全員から感想を話していただきました。新鮮でした。何よりも多くの新たなつながりが生まれ、とても嬉しいとの実感でした。



感想

- ・無辜の住民を殺害したという、人に言いにくいことをみんなの前で証言することは、とても勇気が要ることですごいなと思った。(青年・女性)
- ・介護の仕事をしています。想像を超えたイラクの現状と兵士の苦悩、民族対立の難しさをあらためて知りました。これからの企画を楽しみにしています。(1945年生・男性)
- ・イスラエル兵を見つめる映画「沈黙を破る」同様、人間性を殺されて、人間を殺す怪物になってしまう戦争の愚かさ・恐ろしさが、当事者たちの口から語られる大切な映画でした。(1952年生・女性)
- ・とってもよかった。毛利さんと同じく私も(還暦で)今年生まれ変わったので、今後も積極的に見聞していきたいです。(1949年生・女性)
- ・従軍兵士の証言は非常に重いものでした。日本人の中にも同じ思いで語らずに故人となった方や、90才を超えた今なお悩み続けている方もあると思われます。このような人びとをつくったのは国家の犯罪だと言っていたのが印象的でした。(1944年生まれ・女性)